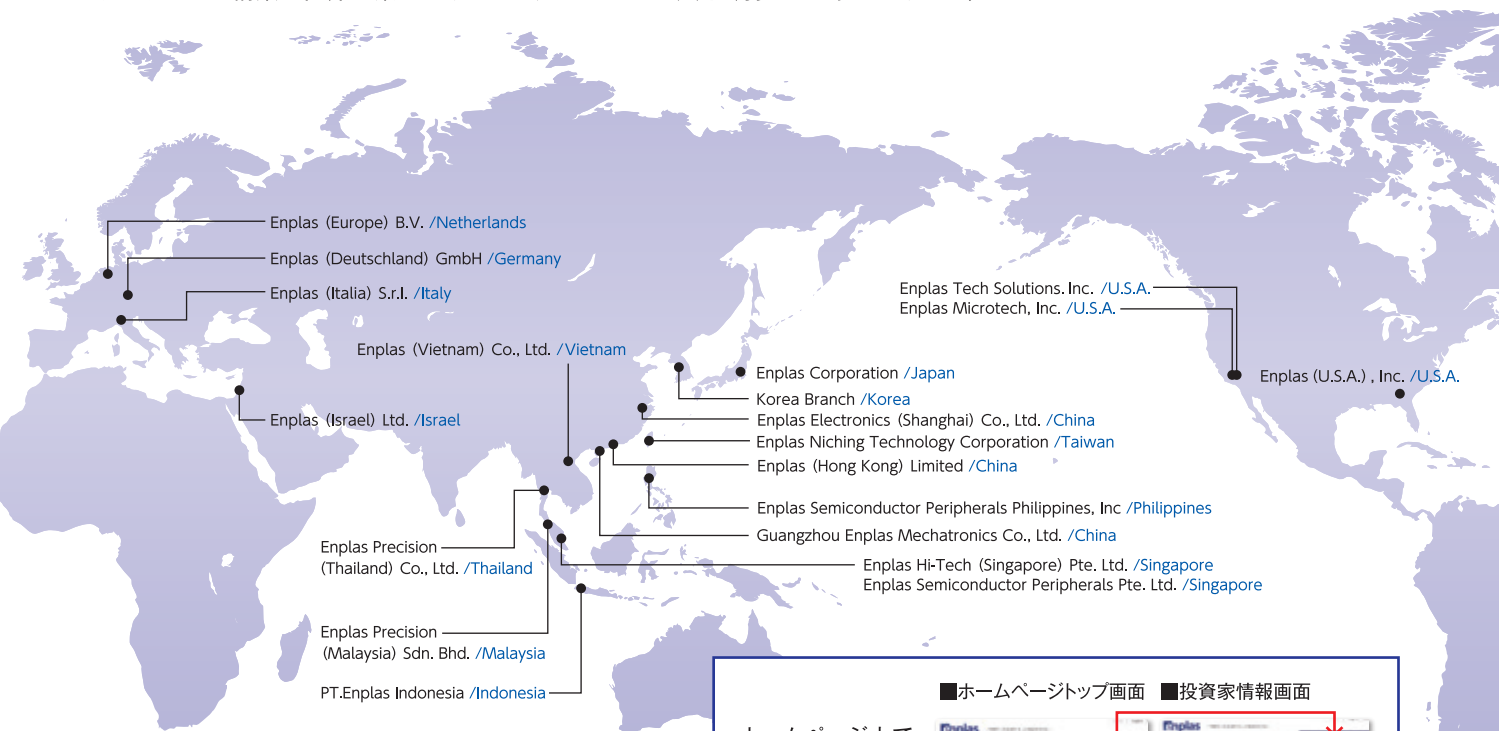


■ 海外ネットワーク

技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



株式会社エンプラス

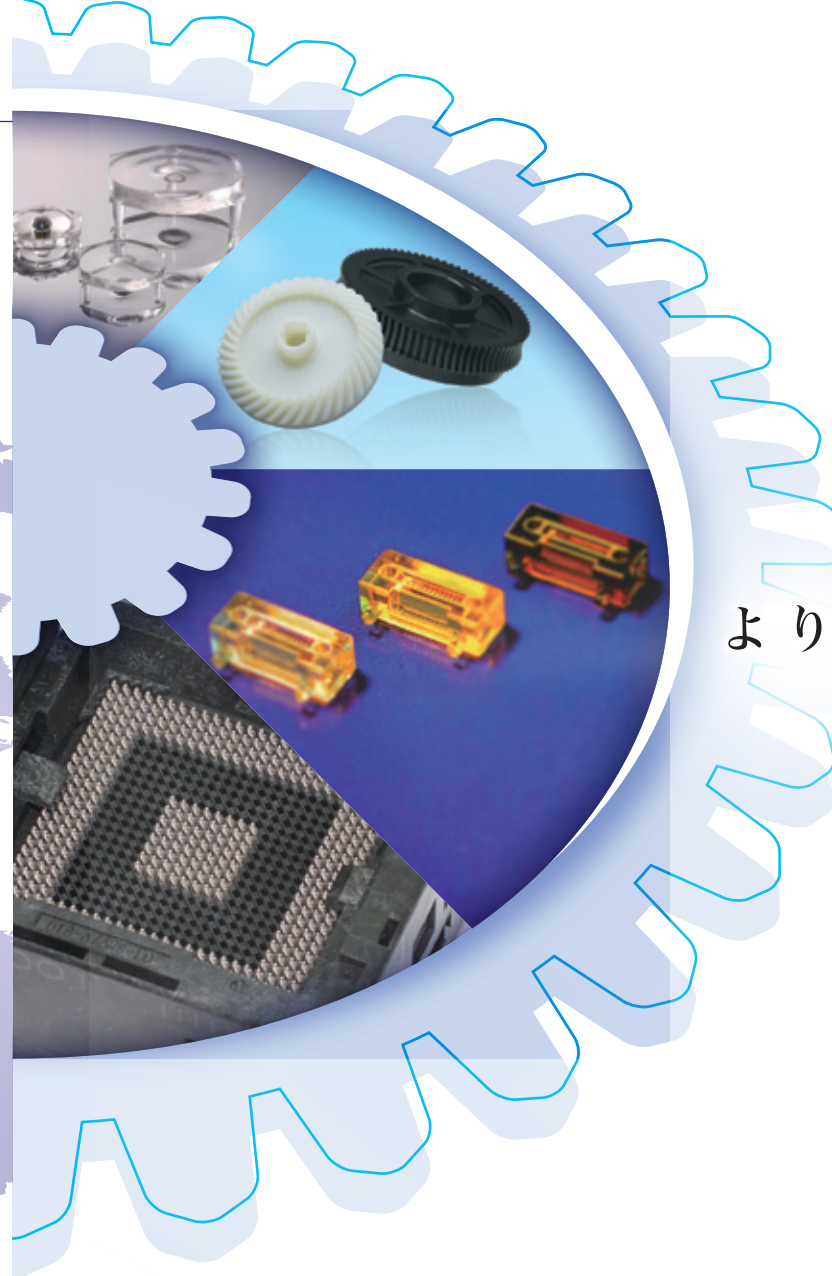
〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688
http://www.enplas.com



ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

■ホームページトップ画面 ■投資家情報画面

エンプラス 検索 エンプラスIR 検索



よりよき明日を目指して

平成27年3月期 (第54期) 中間報告書
平成26年4月1日から平成26年9月30日まで





株式会社エンプラス

Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 07. 特集 “Global Enplas” の実現に向けて
- 08. 連結財務の状況
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。

株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。



代表取締役社長 横田大輔

Q 上期の経営実績についてお話しください。

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）における世界経済は、米国においては経済指標の改善が続き、経済は拡大基調となりましたが、欧州経済は景気回復の兆しがみられたものの、ウクライナや中東の地政学的リスクが残ったまま、先行き不透明な状況が続いています。また、中国経済も景気の急速な悪化に歯止めがかかりましたが、依然として景気減速傾向が続いております。日本経済は、消費税増税による個人消費の反動減がやや長引き、景気回復は足踏み状態が続きました。

当社はこのような環境下で、高付加価値製品や新技術の開発、グローバルでの拡販活動、および高品質の製品を安定的に供給できる生産体制の強化に注力してまいりましたが、市場環境の変化に加え、各事業の戦略事項の進捗が遅れが見られた結果、当第2四半期累計期間の連結売上高は19,998百万円（前年同期比0.8%減）となり、収益面に

おきましては、連結営業利益は5,644百万円（前年同期比13.1%減）、連結経常利益は5,887百万円（前年同期比12.7%減）、連結四半期純利益は3,973百万円（前年同期比24.0%減）となりました。

Q 上期の事業環境についてお話しください。

当社のコア事業であるエンブラ事業関連に属する自動車部品業界は、米国を中心とした自動車販売が好調に推移した一方で、プリンタ部品業界はペーパーレス化が進行し、市場競争の激化がより鮮明となりました。半導体市場は、スマートフォン・タブレット用途の普及拡大に加え、車載・産業用途の受注増加が下支えとなり、当社バーンイン/テストソケットの販売は好調に推移しました。オプト関連事業は、光通信関連ではサーバー需要の増加を背景に、光トランシーバー市場が成長を続けました。しかし、LEDを光源とする液晶テレビ業界におきましては、光源直下型タイプの採用が進んでいるものの、新興国市場の

成長鈍化、および新興国向けローエンドモデルにおいて当社レンズの採用が遅れ、苦戦いたしました。

Q 下期施策についてお話しください。

下期におきましては、今期の経営基本方針に掲げております「バランスのとれた持続可能な成長」の実現に向けて、グローバル経営基盤の強化、グローバル成長戦略推進、および事業の成長に対する積極投資を行ってまいります。

エンプラ事業におきましては、激化する市場競争に勝ち抜くべく、事業構造改革を重要課題として取り組んでまいります。具体的には、事業体制の再構築、新規戦略製品の開発、および高付加価値製品の創出と拡販を強化し、収益性の向上を図ってまいります。シンガポールに本社機能を移転した半導体機器事業におきましては、今期に事業を譲受けた欧州販売代理店のマーケティング体制を活用することで、グローバル市場のシェア拡大、および市場メイプレイヤーが集中する台湾を中心とした拡販体制を強化してまいります。オプト事業におきましては、LED光源用光拡散レンズのハイエンド製品の開発と上市による差別化を推進し、またLED光源液晶テレビ市場の成長が見込まれる新興国の中でも、特に中国市場に焦点を絞った拡販に注力してまいります。光通信分野におきましては、

第54期経営基本方針

- 1 Pursuing Sustainable growth with well balanced バランスのとれた持続可能な成長
- 2 Reshaping the Global Enplas 前進していない現実を直視し、様々な問題の解決

サーバー需要の増加による市場成長が続いたことに加え、光通信速度の高速化傾向を背景に当社戦略製品の受注も増加傾向にあります。今後のさらなるグローバルシェア拡大に向け、技術的な差別化を推進し、積極的な提案活動を行ってまいります。

Q 株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により、強固な財務体質を堅持しております。経営活動の成果は、明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また安定的配当の考え方も取り入れた上で今期以降の業績予想を勘案し、配当を決定しております。

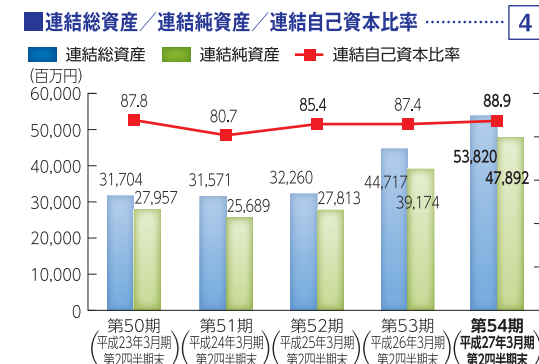
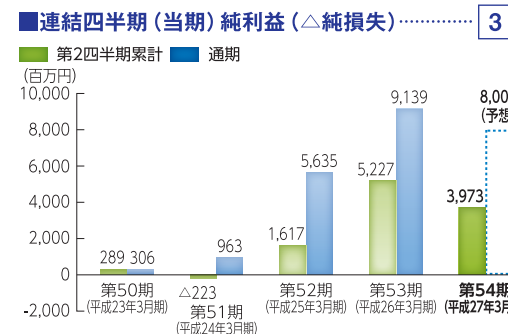
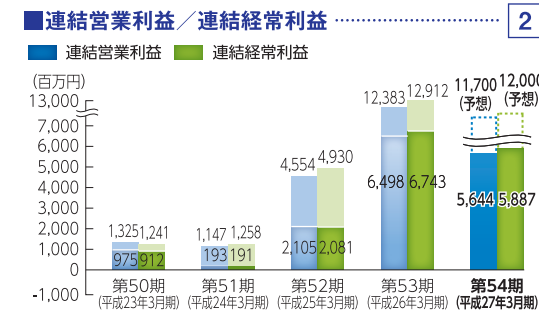
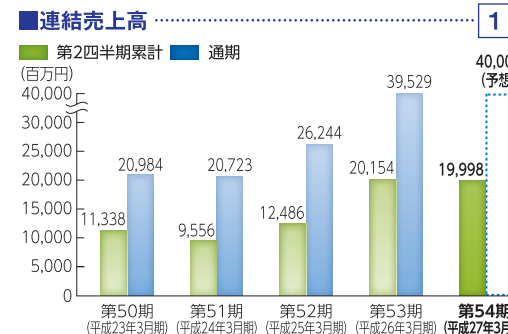
内部留保しております資金についてですが、中長期的展望に立って生産設備投資や研究開発投資、また情報化投資や新事業創出のためのM&A資金などに振り向けており、将来においても収益力を向上させることを基本概念として、株主の皆様へ還元できるものと考えております。

なお、当期中間配当につきましては1株当たり40円とさせていただきます。また、当期の期末配当金は1株当たり40円、通期で1株当たり80円を予定しております。

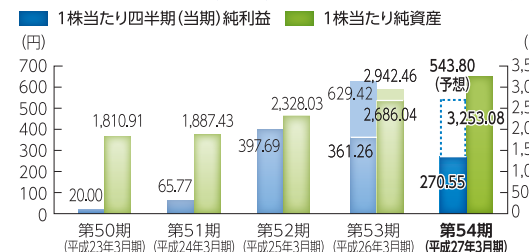
Q 株主の皆様へ一言お願いします。

私たちは、現在まで培ってきた技術力をベースに、当社にしか実現でき得ない高付加価値の製品開発に挑戦し、お客様に感謝される製品・サービスを提供してまいります。そして世界に新しい創造的価値を提供するイノベーションカンパニーを目指してまいります。

今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻をたまわります様、よろしくごお願い申し上げます。



■ 1株当たり四半期(当期)純利益 / 1株当たり純資産



※業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

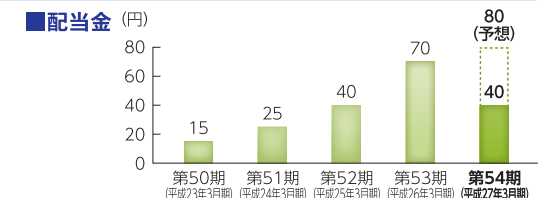
■ 平成27年3月期 通期予想

科目	平成26年3月期 通期	平成27年3月期 第2四半期累計	平成27年3月期 通期(予想)
売上高	39,529	19,998	40,000
営業利益	12,383	5,644	11,700
経常利益	12,912	5,887	12,000
四半期(当期)純利益	9,139	3,973	8,000
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	629.42	270.55	543.80

株主還元について

1株当たり配当金80円

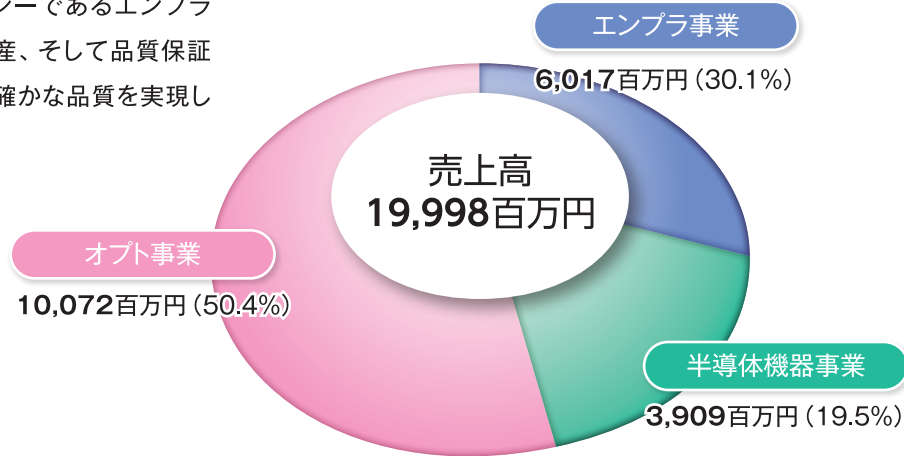
当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して中間配当を含む年間配当を1株当たり80円を予定しております。



事業別概況

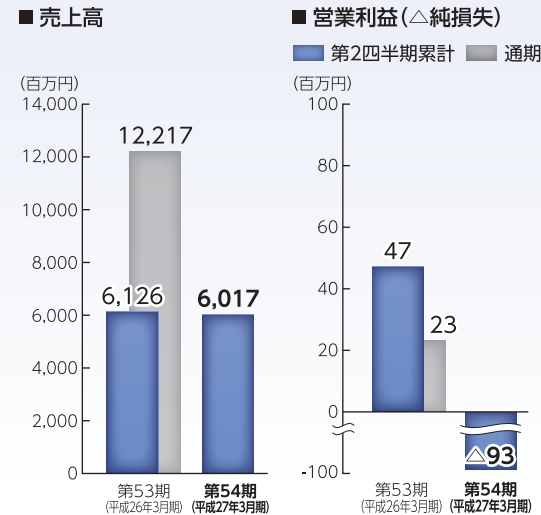
事業セグメント別売上高構成比 平成27年3月期第2四半期累計 (平成26年4月1日から平成26年9月30日)

当社の各事業は、先進のオプティクスやエレクトロニクス技術を、基盤テクノロジーであるエンブラ技術に融合し、金型設計から量産、そして品質保証まで含めた一貫生産体制により確かな品質を実現しています。



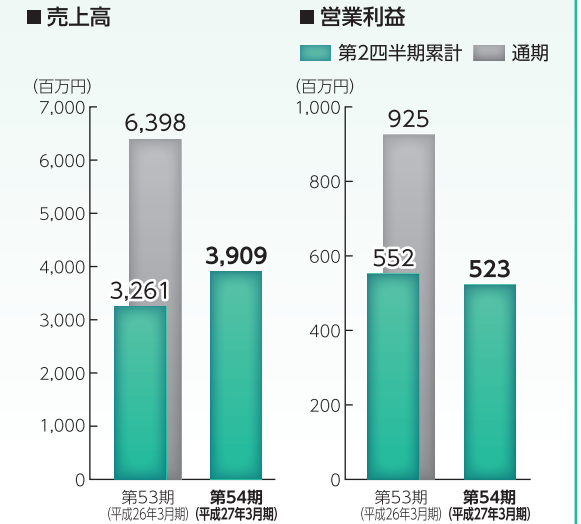
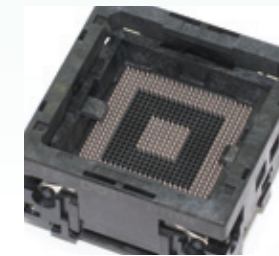
エンブラ事業

プリンター用部品業界は世界的な市場競争の激化が鮮明となりました。自動車用部品は米国を中心としたグローバル市場における自動車販売が継続して好調に推移したことを背景に堅調に推移したものの、事業構造改革の進捗の遅れにより、当第2四半期累計期間の連結売上高は6,017百万円（前年同期比1.8%減）、セグメント営業損失は93百万円（前年同期は47百万円のセグメント営業利益）となりました。



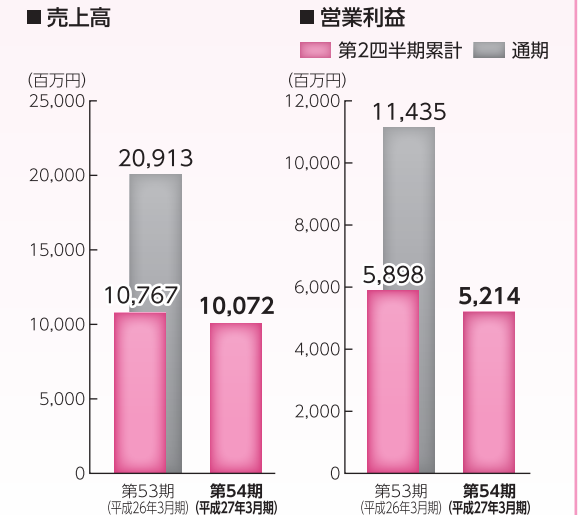
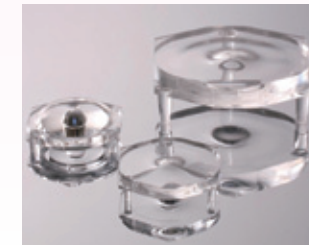
半導体機器事業

半導体市場は、世界的なスマートデバイスの普及拡大、車載・産業用途の需要増加が下支えとなり、好調に推移しました。当社バーンイン/テストソケットもスマートデバイス、車載、サーバー用途を中心に販売が増加したものの、売上構成比の変化、今期に実施した欧州販売代理店の事業譲受けに伴う費用の増加等により、当第2四半期累計期間の連結売上高は3,909百万円（前年同期比19.9%増）、セグメント営業利益は523百万円（前年同期比5.3%減）となりました。



オプト事業

光通信事業はサーバー需要が堅調に推移し、光トランシーバー市場も成長を続けたため、受注が増加しました。LED用拡散レンズは、LED光源液晶テレビの中でも光効率の高い光源直下型タイプの採用が進んでいるものの、新興国向けローエンドモデルにおける当社レンズの採用に遅れがみられました。この結果、当第2四半期累計期間の連結売上高は10,072百万円（前年同期比6.5%減）、セグメント営業利益は5,214百万円（前年同期比11.6%減）となりました。



エンプラスの生産・営業拠点は、世界各地へ拡大しています。

現在の売上高の約80%は海外が占めており、エンプラスの成長戦略は日本から世界へ広がっています。

グローバル事業推進のための
重点事項

- グローバルモノづくり競争力の強化
- グローバル人材開発の推進
- グローバル経営基盤の強化

世界16の
国と地域
24社

(連結 2014年9月時点)

社員数

1,543名

(連結 2014年9月時点)

海外売上高比率

約80%

(連結 2014年3月末時点)

ヨーロッパ・中東

ヨーロッパ市場
攻略のため
4拠点追加



Enplas (Europe) B.V.

- ヨーロッパ地域へ展開
オランダ
イタリア
ドイツ
イスラエル

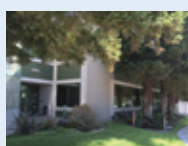
アジア・東南アジア

新興国市場の成長取り込み
中国・台湾戦略の強化

- 中国 上海工場を
LE-Cap生産のメイ
ン工場として稼働
- タイ バンコクに営
業事務所を設立



Enplas Electronics
(Shanghai) Co., Ltd.



Enplas Microtech, Inc.

- アメリカ カリフォルニア
州に新会社設立
- バイオ市場に強い北米地
域開拓

北米

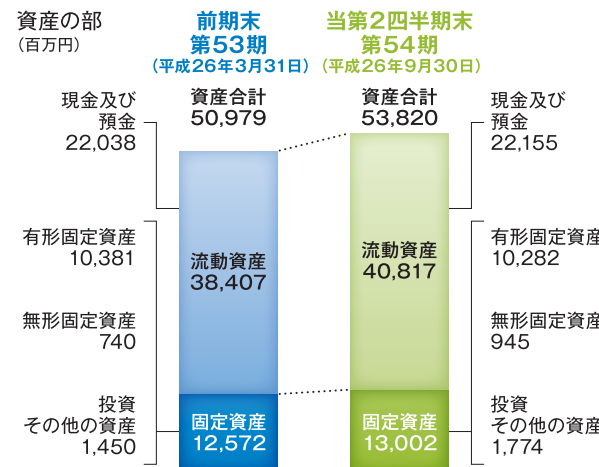
先端技術情報の収集と
マーケティング強化

年々グローバル競争が激化する精密部品業界において、先端技術の追求、要素技術の確立により世界のあらゆる地域で“高精度・高機能・高品質”モノづくりに取り組み、真のグローバル経営を目指します。

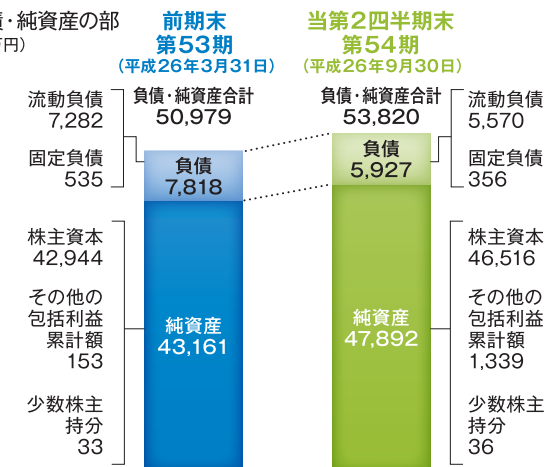
また、外国人社外取締役2名を新たに迎え、コーポレートガバナンス体制の強化を図ってまいります。

連結財務の状況

■ 連結貸借対照表の概要

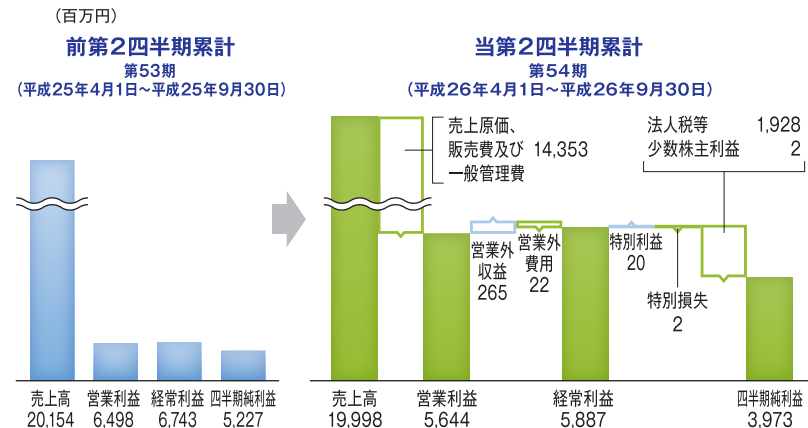


資産合計増加の主な変動要因は、受取手形及び売掛金で342百万円、製品で197百万円、有価証券で1,800百万円増加したことなどによるものです。



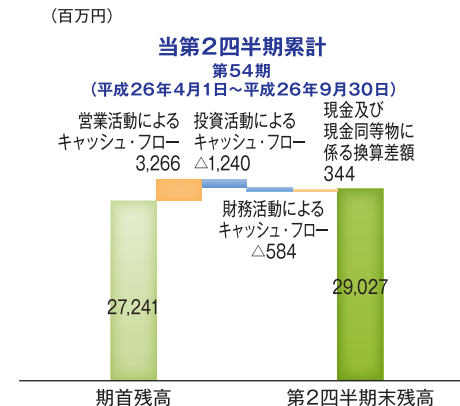
純資産は47,892百万円となり、前連結会計年度末比4,731百万円の増加の主な変動要因は、利益剰余金で3,442百万円、為替換算調整勘定で1,086百万円増加したことなどによるものです。その結果、当連結会計年度末の自己資本比率は88.9%となり、前連結会計年度末比で4.4%増加しております。

■ 連結損益計算書の概要



連結売上高は19,998百万円(前年同期比0.8%減)となり、連結営業利益は5,644百万円(前年同期比13.1%減)、連結経常利益は5,887百万円(前年同期比12.7%減)、連結四半期純利益は3,973百万円(前年同期比24.0%減)となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要



当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は29,027百万円となり、前年同期比で6,448百万円増加しました。

(平成26年9月30日現在)

(平成26年9月30日現在)

会社概要

商号 株式会社エンプラス
 所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
 設立 1962年2月21日
 資本金 80億8,045万円

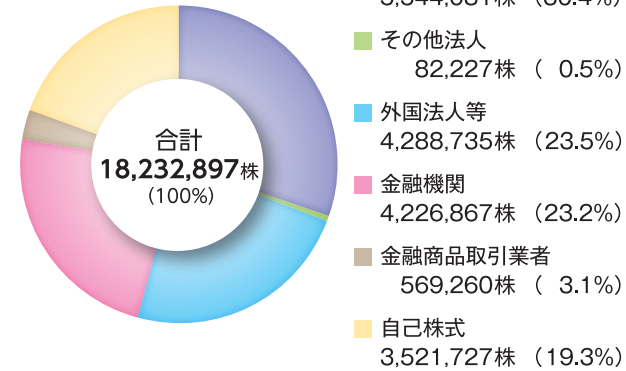
株式情報

発行可能株式総数 62,400,000株
 発行済株式総数 18,232,897株
 株主数 6,530名

役員

代表取締役社長	横田 大 輔
取締役	酒井 崇
取締役	菊地 豊
取締役	丸山 良次
取締役	長谷川 一郎
取締役	沓沢 茂雄
取締役	クレイグ G ネイラー
取締役	ヨーン ヨン リオン
常勤監査役	手嶋 晴 幾
常勤監査役	田宮 義 男
監査役	檀原 武
監査役	落合 栄

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月
 株主名簿管理人 東京証券代行株式会社
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社本店および全国各支店で行っております。
 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 東京証券代行株式会社 事務センター(お問い合わせ先) ☎0120-49-7009
 郵便物送付先、連絡先
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 公告方法 電子公告 (<http://www.enplas.com>)
 ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。
 貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (<http://info.edinet-fsa.go.jp/>)にて開示しております。
 上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部

国内ネットワーク

本社
 埼玉県川口市並木2丁目30番1号

鹿沼工場
 栃木県鹿沼市さつき町7番2号

名古屋営業所
 愛知県名古屋市中村区名駅2丁目45番7号 松岡ビル3階

国内グループ会社

株式会社エンプラス研究所
 埼玉県川口市並木2丁目38番5号

QMS株式会社
 埼玉県川口市上青木1丁目3番12号

■ **西日本営業所**
 大阪府大阪市淀川区宮原4丁目13番7号 理想新大阪ビル5階

株式会社エンプラス半導体機器
 埼玉県川口市上青木1丁目19番57号

■ **九州営業所**
 福岡県福岡市博多区博多駅南1丁目2番3号 博多駅前第1ビル2階

株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス
 埼玉県川口市並木2丁目30番1号

